

マテリアリティに対するKPIと2025年度実績

8つのマテリアリティ		長期目標	中期目標	KPI	2025年度実績
事業活動に関するマテリアリティ	1.独創的な製品の創製・開発	●低分子創薬技術をコアに、世界中の人びとの健康に貢献する独創的な医薬品を持続的に創出する。低分子創薬ではアプローチできない疾患に対しては、パートナー企業との連携により、モダリティにこだわらず導入し、新たな治療選択肢を提供する。 ●ヘルスケア食品事業により、くすりと食の両面から健康を支え、高齢者や患者さんのQOL向上に貢献する。	●研究開発パイプラインの拡充 ●創薬研究プロセス革新、臨床開発体制強化による、POC取得までのスピードと質の向上 ●食べやすく、使いやすい機能性の高い高品質なヘルスケア食品の提供	●創薬プロセスの技術革新 (マテリアリティ1,4共通)	新技術活用プロジェクト比率(カバー率):100% 2024年10月に導入した低分子化合物 分析・分取プラットフォーム (ChromaJean社)および2023年7月に導入したAI創薬システムMakya™を (Iktos SA社)を全ての創薬プロジェクトに活用
				●臨床開発入り品目数、開発パイプライン品目数 (マテリアリティ1,4共通)	2025年度 臨床開発入り品目数：4テーマ ・オルタシデニブ：P1試験(薬物動態試験) ・KSP-0914：P1試験 ・KSP-0576：P1試験 ・KSP-0930：P1試験 臨床段階 開発パイプライン数: 9プロジェクト
	4.医療アクセスの向上	●希少疾病・難病等アンメット・メディカル・ニーズへの取り組みや海外パートナー企業との連携により、医療アクセスを拡大する	●希少疾病・難病等アンメット・メディカル・ニーズを充足する医薬品の開発およびエビデンス創出 ●創製品のグローバル展開を通じた国内外の患者さんへの貢献 ●医療アクセス向上に向けた情報提供の強化	●新製品の上市数、発売国数 (マテリアリティ1,4共通)	○新製品上市数(海外提携先含む):2製品 ○製品販売国数(日本含む) ・新製品 (リンザゴリクス、ホスタマチニブ)：11カ国 ・その他製品 (シロドシン、ミチグリニド) の世界販売国数60カ国以上 (うち、LMICs 21カ国)
				●患者向けサイトおよび医療関係者向けサイトの認知度向上 (マテリアリティ1,4共通)	・女性向け健康支援サイト「be loving」新規開設(2025年12月) ・医療関係者向けWebサイトKISSEI Medical Navi 会員数：18,500名
	2.高品質な医薬品の安定供給	●高品質な医薬品をグローバルに提供できる供給体制を構築し、国内外に安定的に供給する	●国際基準を満たすGMP体制の構築 ●製品の安定供給体制の強化	●グローバル供給体制の構築状況	松本工場 新製剤棟建設による生産能力増強など リンザゴリクス及びホスタマチニブ販売国数：11カ国
				●再生医療等製品の製造販売体制の構築状況	Cretostimogene grenadenorepvec ・高リスク患者における筋層非浸潤性膀胱がん：P3試験 ・中リスク患者における筋層非浸潤性膀胱がん：Pre-IND
				●品質課題を起因とした製品回収ゼロ	品質課題に起因する製品回収：0件
	3.患者さん中心の医療への貢献	●科学的根拠に基づいた信頼性の高い安全性・有効性の情報を迅速に収集・評価・分析し、高い倫理性をもって適切に提供する	●患者目線に立った、疾患啓発や治療法などの適正な医療情報の提供 ●再生医療等製品の的確な信頼性保証体制の構築	●医療関係者からの当社の情報提供姿勢に対する評価	厚生労働省調査事業による行政指導対象事案：0件
				●患者向けサイト及び医療関係者向けサイトの認知度向上 ●再生医療等製品等に関する安全性情報の提供	・女性向け健康支援サイト「be loving」新規開設(2025年12月) ・医療関係者向けWebサイトKISSEI Medical Navi 会員数 18,500名

マテリアリティに対するKPIと2025年度実績

8つのマテリアリティ		長期目標	中期目標	KPI	2025年度実績
経営基盤に関するマテリアリティ	5.経営戦略を実現する創造性のある人材の育成	●経営戦略を実現する創造性のある人材の育成と活躍による社員と会社の持続的成長を促す組織文化の醸成 ●高い倫理観と当事者意識を持ち、新たな挑戦と高品質な経営・業務遂行にコミットする組織文化(Quality Culture)の醸成と人材の育成	●領域・製品戦略を遂行できる高度な専門性を有する人材の育成・獲得 ●経営戦略を推進する次世代のマネジメント人材の育成 ●エンゲージメントの向上による個と組織の活性化	●自発的離職率、3年定着率	・自発的離職率：3.18%(単体) ・3年定着率：92.3%(単体)
				●一人当たりの教育費用、研修時間	・一人当たり教育費用：138,827円(単体) ・一人当たり研修時間：45.22時間(単体)
				●従業員エンゲージメントスコア、組織活性度スコア	・人事に関する意識調査結果：第81期有価証券報告書をご参照ください ・組織活性度調査結果：コーポレートサイトにて9月開示予定
	6.ガバナンスの強化	●激変する環境に対応し、持続的な成長と企業価値の向上を実現するコーポレート・ガバナンス体制を構築する	●コーポレート・ガバナンス体制の強化 ●コンプライアンス体制の強化 ●リスクマネジメント、BCM体制の強化・充実 ●ESG外部評価の向上	●取締役会実効性評価の実施結果に基づく施策の取り組み状況	取締役会実効性評価：コーポレート・ガバナンス報告書をご参照ください
				●コンプライアンス教育実施状況	全役職員対象に研修・確認テストを実施(e-ラーニング研修6回、外部講師研修2回の計8回) 受講率：99.7%以上、確認テスト平均点：92.6点
				●オールハザード型BCM体制の構築状況	災害初動対応マニュアルの作成および改訂 リスクサーベイ：1事業所／年
				●会社による法令違反事件数(0件)	会社による法令違反事件数：0件
				●ESG Indexの組み入れ状況	・ESG外部評価組み入れ実績(FTSE Russell、CDP Climate/Water、S&P/JPX Carbon、Morningstar Gender) ・2026年度SOMPO サステナビリティ・インデックス構成銘柄に選定
	7.環境経営の推進	●自然資本に配慮した、キッセイグループ全体での2050年カーボンニュートラルの実現と循環型社会への貢献	●気候移行計画に基づいた脱炭素活動の推進【2030年度CO2排出量(Scope1+2)：2020年度比42%削減】 ●廃棄物の削減と資源循環の推進【2030年度廃プラスチック再資源化率：65%以上】 ●水資源の適正かつ効率的な活用【2030年度取水量：2024年度比2.5%削減】	●気候移行計画の進捗	・CO2排出量(Scope1+2)(連結)：10,737トン(2020年度比39%減)※速報値 ・CDP2025気候変動A評価
				●廃プラスチック再資源化率	・廃プラスチック再資源化率(単体)：84.0% ※速報値
				●取水量	・取水量(単体)：145千m ³ (2024年度比：8%減)※速報値 ・CDP2025水セキュリティA－評価
	8.地域社会との共存共栄	●良き企業市民としての社会貢献活動を継続的に実施し、地域社会の発展に貢献する	●地域に根差した社会貢献活動の実施 ●文化芸術、スポーツへの貢献	●社会貢献活動の実績	事業所周辺の清掃活動、河川清掃、地元学生との環境法務実習など
				●非営利団体、または社会貢献・地域貢献に資する寄付件数	39件(文化芸術・スポーツへの協賛および児童養護施設等への地域・社会貢献に資する協賛・寄附など)